

原子力機構の改革について

http://www.jaea.go.jp/about_JAEA/reorganization/

原子力機構は、我が国唯一の原子力の総合的な研究開発機関として、安全を最優先に研究開発を推進していく責務を担っています。しかしながら、「もんじゅ」における保守管理不備及び J-PARC ハドロン実験施設における放射性物質漏えい事故が発生し、これまで実施してきた過去の対応も含め分析を行い、安全を最優先とする組織として信頼が得られるよう、2013年9月26日に「日本原子力研究開発機構の改革計画」を策定（改革計画に関する資料は原子力機構のホームページからご覧いただけます。）しました。本改革計画に基づき、同年10月1日から1年間を集中改革期間に設定し、理事長を中心に役職員一丸となって改革に取り組んでいるところです。

今後、2014年9月末を目途に1年間の改革の成果を取りまとめ、原子力機構のホームページに公開する予定です。

【具体的取組】

- 「強い経営」の確立
 - ・経営支援機能の強化、部門制の導入（下図参照）
- 業務運営の見直しによる組織の活性化
 - ・業務改善活動（課室長主導による課室単位の業務改善活動の展開）
- 事業の重点化・合理化
 - ・「東電福島第一原発事故への対応」や「もんじゅ」への経営資源の重点化
 - ・機構事業の合理化（核融合研究開発及び量子ビーム応用研究（一部）について分離・移管等）
- 安全確保・安全文化醸成
 - ・安全文化醸成活動の総点検
 - ・理事長方針の浸透（役員と職員の意見交換会の実施、理事長提案箱の設置）
- もんじゅ改革
 - ・自立的な運営管理体制の確立（理事長が改革を直接指揮、予算・人員の投入等）
 - ・安全最優先の組織風土への変革（理事長主導による安全意識改革等）
 - ・マイプラント意識の定着と個々人の能力を最大限発揮できる現場力強化への改革
- J-PARC 改革
 - ・ハード対策（放射性物質の漏えい防止や監視強化のための施設の改良）
 - ・ソフト対策（放射線安全管理強化）

組織図（2014年4月1日再編）

